

わかうら かんこうめいしよ いった  
和歌浦の観光名所に行ったよ!

②班

## ～神秘的な玉津嶋神社～



稚日女尊、息長足姫尊、衣通姫尊、明光浦霊を祀り、古来より和歌三神の一社として有名。風明媚な玉津島は多くの歌に登場しかの山部赤人も長歌一首、反歌二首で歌っています。万葉の頃に思いを馳せて赤人の美意識を感じます。境界から登れる奠供山と鏡山の眺めは聖武天皇もびっくりの美しい眺めです。

従駕した片男波の情景に感動した歌々残しています。

和歌の浦の情景は枕歌として後々まで有名になります。



## 玉津島の歴史

和歌の浦は、万葉の歌人、あの山部赤人の歌一首によって、全国にその名を知れました。神亀元年(742)聖武天皇は、初めて玉津島に行幸し和歌の浦景観を絶賛し、景観保全のために、番人を置き、地れいさいしの制度を定めました。

当時紀ノ川は、河口を和歌の浦に大きく開き、そこに小島を6つ浮かべていました。

それが玉津島でした。現在それらは妹背山、鏡山、天狗山、雲がい山、妙見山、船頭山の名で呼ばれ妹背山一つを残しみな陸地化しています。

この万葉の若の浦は平安時代時代に入って「和歌の浦」となり、歌枕の代表として今世の終わりまで無数の詩的イメージをうみました。



## 感想



玉津島はとてもきれいでした。赤色の鳥居や造形が特にきれいでした。山にのぼるのは一番のお勧めです。不老橋やアートキューブなどが見えて和歌の浦の美しさを実感しました。また別の機会にもう一度行きたいです。